

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 8No. 1; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009242">http://hdl.handle.net/10502/00009242</a>

1983・3 8<sub>卷</sub>1<sub>号</sub>

# 国立民族学博物館 研究報告

●  
法学における慣習法概念——千葉正士

タイの伝統法——『三印法典』の性格をめぐって——石井米雄

『マンラーイ法典』における土地侵犯と所有——北原 淳

東北タイ及びラオスの古代法——*Kotmai Khosarat* を中心に——吉川利治

日系キリスト教会の展開と日系キリスト教徒の意識

——カリフォルニア州サクラメントの事例——中牧弘允

A Hindu Worship Service in Sixteen Steps,

*Shoḍaśa-upacāra-pūjā*——TACHIKAWA, Musashi



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

8 卷 1 号

1983年3月

## 目 次

法学における慣習法概念	千葉 正士	1
タイの伝統法		
—『三印法典』の性格をめぐって—	石井 米雄	18
『マンラーイ法典』における土地侵犯と所有	北原 淳	33
東北タイ及びラオスの古代法		
— <i>Kotmai Khosarat</i> を中心に—	吉川 利治	51
日系キリスト教会の展開と日系キリスト教徒の意識		
—カリフォルニア州サクラメントの事例—	中牧 弘允	73
A Hindu Worship Service in Sixteen Steps, <i>Shodāśa — upacāra — pūjā</i>	TACHIKAWA, Musashi	104
彙 報		187
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		193
国立民族学博物館研究報告執筆要領		194

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 8 No. 1

March 1983

---

CHIBA, Masaji	The Concept of Customary Law in Jurisprudence .....	1
ISHII, Yoneo	A Note on the Law of the Three Seals .....	18
KITAHARA, Atsushi	Invasion and Holding of Land in the Law of King Mangrai .....	33
YOSHIKAWA, Toshiharu	The Ancient Laws of the Lao People: <i>Kotmai Khosarat</i> and Others .....	51
NAKAMAKI, Hirochika	The History of Japanese Christian Churches and the Consciousness of Japanese Christians in Sacramento, California, U.S.A. ....	73
TACHIKAWA, Musashi	A Hindu Worship Service in Sixteen Steps, <i>Shoḍaśa-upacāra-pūjā</i> .....	104

**彙 報**

(昭和57年10月～  
昭和57年12月)

**人事異動**

(行政職) (昇任)

11月4日 国立民族学博物館管理部長 秦  
明夫(文部省学術国際局研究機関  
課課長補佐)

(配置換)

大学入試センター事業部長 木  
村誠(国立民族学博物館管理部長)  
金沢大学庶務部人事課長 村瀬  
庄蔵(国立民族学博物館管理部企  
画課長)

国立民族学博物館管理部企画課  
長 徳岡昇(国立能登青年の家庶  
務課長)

**電子計算機運営委員**

氏名	任期
及川 昭文	(56. 3. 16～58. 3. 15)
大林 太良	(56. 3. 16～58. 3. 15)
国井 利泰	(56. 3. 16～58. 3. 15)
田中 琢	(56. 3. 16～58. 3. 15)
辻 三郎	(56. 3. 16～58. 3. 15)
長尾 眞	(56. 3. 16～58. 3. 15)
中山 和彦	(56. 3. 16～58. 3. 15)
星 仰	(56. 11. 16～58. 11. 15)
山中 光一	(56. 3. 16～58. 3. 15)
吉田 将	(56. 3. 16～58. 3. 15)
佐々木高明	(54. 2. 1～ )
中村俊亀智	(56. 3. 16～58. 3. 15)
大給 近達	(56. 3. 16～58. 3. 15)
藤井 知昭	(56. 3. 16～58. 3. 15)
栗田 靖之	(56. 3. 16～58. 3. 15)
小山 修三	(56. 3. 16～58. 3. 15)
杉田 繁治	(56. 3. 16～58. 3. 15)
秦 明夫	(57. 11. 4～ )

**食堂・売店選定委員**

氏名	任期
小松 左京	(56. 9. 1～58. 8. 31)

本間 正義	(56. 9. 1～58. 8. 31)
秦 明夫	(57. 11. 4～ )
佐々木高明	(52. 9. 1～ )
祖父江孝男	(52. 9. 1～ )

**展示用機器改善委員会委員**

氏名	任期
国井 利泰	(57. 4. 1～58. 3. 31)
田中 琢	(57. 4. 1～58. 3. 31)
辻 三郎	(57. 4. 1～58. 3. 31)
長尾 眞	(57. 4. 1～58. 3. 31)
中野 照海	(57. 4. 1～58. 3. 31)
中山 和彦	(57. 4. 1～58. 3. 31)
西之園晴夫	(57. 4. 1～58. 3. 31)
祖父江孝男	(57. 4. 1～58. 3. 31)
佐々木高明	(57. 4. 1～58. 3. 31)
栗田 靖之	(57. 4. 1～58. 3. 31)
端 信行	(57. 4. 1～58. 3. 31)
杉田 繁治	(57. 4. 1～58. 3. 31)
森田 恒之	(57. 4. 1～58. 3. 31)
八村廣三郎	(57. 4. 1～58. 3. 31)
秦 明夫	(57. 11. 4～58. 3. 31)
木野 光郎	(57. 4. 1～58. 3. 31)
安達 香代	(57. 4. 1～58. 3. 31)
柴田 正美	(57. 4. 1～58. 3. 31)

**館内各種委員会**

**展示委員会委員**

氏名	任期
祖父江孝男	(57. 4. 1～58. 3. 31)
片倉もとこ	(57. 4. 1～58. 3. 31)
杉本 尚次	(57. 4. 1～58. 3. 31)
中村俊亀智	(57. 4. 1～58. 3. 31)
杉村 棟	(57. 4. 1～58. 3. 31)
大塚 和義	(57. 4. 1～58. 3. 31)
石毛 直道	(57. 4. 1～58. 3. 31)
福井 勝義	(57. 4. 1～58. 3. 31)
森田 恒之	(57. 4. 1～58. 3. 31)
黒田 悦子	(57. 4. 1～58. 3. 31)
松山 利夫	(57. 4. 1～58. 3. 31)
宮本 勝	(57. 4. 1～58. 3. 31)
庄司 博史	(57. 4. 1～58. 3. 31)

煎本 孝 (57. 4. 1~58. 3. 31)  
 崎山 理 (57. 4. 1~58. 3. 31)  
 重松真由美 (57. 4. 1~58. 3. 31)  
 秦 明夫 (57. 11. 4~ )  
 安達 香代 (54. 12. 16~ )  
 佐藤 嗣 (57. 4. 1~ )

広報普及委員会委員

氏名	任期
伊藤 幹治	(57. 4. 1~58. 3. 31)
君島 久子	(57. 4. 1~58. 3. 31)
和田 祐一	(57. 4. 1~58. 3. 31)
吉田 集而	(57. 4. 1~58. 3. 31)
小山 修三	(57. 4. 1~58. 3. 31)
垂水 稔	(57. 4. 1~58. 3. 31)
田邊 繁治	(57. 4. 1~58. 3. 31)
杉田 繁治	(57. 4. 1~58. 3. 31)
中牧 弘允	(57. 4. 1~58. 3. 31)
庄司 博史	(57. 4. 1~58. 3. 31)
宮本 勝	(57. 4. 1~58. 3. 31)
秦 明夫	(57. 11. 4~ )
久保庭伊佐男	(55. 4. 1~ )
木野 光郎	(56. 4. 1~ )
徳岡 昇	(57. 11. 4~ )
安達 香代	(56. 7. 15~ )

環境保全委員会委員

氏名	任期
祖父江孝男	(51. 4. 1~ )
佐々木高明	(51. 4. 1~ )
伊藤 幹治	(52. 4. 1~ )
加藤 九祚	(54. 5. 1~ )
岩田 慶治	(56. 4. 1~ )
大給 近達	(57. 4. 1~59. 3. 31)
石毛 直道	(57. 4. 1~59. 3. 31)
吉田 集而	(57. 4. 1~59. 3. 31)
秦 明夫	(57. 11. 4~ )
久保庭伊佐男	(55. 4. 1~ )
木野 光郎	(56. 4. 1~ )
亀之園藤吉	(54. 4. 1~ )
徳岡 昇	(57. 11. 4~ )

安達 香代 (54. 12. 16~ )  
 佐藤 嗣 (57. 4. 1~ )  
 柴田 正美 (56. 4. 1~ )

防災対策委員会委員

氏名	任期
祖父江孝男	(52. 7. 1~ )
佐々木高明	(52. 7. 1~ )
伊藤 幹治	(52. 7. 1~ )
加藤 九祚	(54. 5. 1~ )
岩田 慶治	(56. 4. 1~ )
秦 明夫	(57. 11. 4~ )
久保庭伊佐男	(55. 4. 1~ )
木野 光郎	(56. 4. 1~ )
亀之岡藤吉	(54. 4. 1~ )
徳岡 昇	(57. 11. 4~ )
安達 香代	(54. 12. 16~ )
佐藤 嗣	(57. 4. 1~ )
柴田 正美	(56. 4. 1~ )

大学院委員会委員

氏名	任期
祖父江孝男	(54. 6. 1~ )
佐々木高明	(54. 6. 1~ )
伊藤 幹治	(54. 6. 1~ )
加藤 九祚	(54. 6. 1~ )
岩田 慶治	(56. 4. 1~ )
和田 祐一	(57. 4. 1~58. 3. 31)
杉本 尚次	(57. 4. 1~58. 3. 31)
秦 明夫	(57. 11. 4~ )

講堂管理運営委員会委員

氏名	任期
佐々木高明	(57. 4. 15~58. 4. 14)
藤井 知昭	(57. 4. 15~58. 4. 14)
守屋 毅	(57. 4. 15~58. 4. 14)
大森 康宏	(57. 4. 15~58. 4. 14)
秦 明夫	(57. 11. 4~ )
久保庭伊佐男	(56. 4. 15~ )
木野 光郎	(56. 4. 15~ )
徳岡 昇	(57. 11. 4~ )

## 彙 報

安達 香代 (56. 4. 15～ )  
柴田 正美 (56. 4. 15～ )

### 施設整備委員会委員

氏 名	任 期
佐々木高明	(55. 5. 8～ )
片倉もとこ	(57. 5. 8～58. 5. 7)
大給 近達	(57. 5. 8～58. 5. 7)
中村俊亀智	(57. 5. 8～58. 5. 7)
吉田 集而	(57. 5. 8～58. 5. 7)
大胡 修	(57. 5. 8～58. 5. 7)
秦 明夫	(57. 11. 4～ )
木野 光郎	(56. 4. 1～ )
亀之園藤吉	(55. 5. 8～ )
安達 香代	(56. 9. 2～ )
佐藤 嗣	(57. 4. 1～ )

### 月刊みんぱく編集部会

氏 名	任 期
中牧 弘允	(57. 4. 1～58. 3. 31)
小山 修三	(57. 4. 1～58. 3. 31)
杉田 繁治	(57. 4. 1～58. 3. 31)
徳岡 昇	(57. 11. 4～58. 3. 31)

### シンポジウム

研究セミナー「バリ島最古の古典芸能・ガンブーその音楽と舞踊の対応関係をめぐって」

日時 昭和57年10月18日(月)～19(火)

場所 国立民族学博物館

摘要 この研究セミナーでは、単に芸能上演を鑑賞するだけにとどまらず、音楽学・舞踊学その他の関連分野の視点から質疑応答・討論を行なって、いわば言語的コミュニケーションにより音楽・舞踊・演劇の総合理解へ接近することを、しかもそれを異文化理解の一端として試みることを目的としている。

豊かな芸術表現を誇るバリ島の人たちは、次々と新しい芸能の形態を時代の要請に応じて産み出してきたし、同時にその新たな創造の基礎として役立てられた古い遺産

も相当保存している。そこでこのセミナーでは、バリ島に現存する古典芸能の中でも、最古といわれるガンブに焦点をあて、理解を深めていこうとするものである。

### 研究セミナー委員会

#### 委員長

藤井 知昭 国立民族学博物館

#### 委員

大谷紀美子 相愛大学  
高橋 準二 大阪音楽大学  
中川 真 大阪大学  
橋本 以裕 大阪音楽大学  
守屋 毅 国立民族学博物館  
山口 修 大阪大学  
吉本 忍 国立民族学博物館

#### 補 佐

山田 陽一  
ト田 隆嗣 大阪大学

#### 参加者

##### ◎パネラー

###### (音楽)

藤井 知昭 国立民族学博物館  
山口 修 大阪大学

###### (芸能・舞踊)

大谷紀美子 相愛大学  
守屋 毅 国立民族学博物館

###### (音楽・舞踊)

I G.B.N. PANDJI インドネシア舞踊団長、  
バリ・アートセンター  
館長

I Made BANDEM インドネシア国立舞踊  
専門学校長

I Ketut KANTOR インドネシア舞踊団代  
表

I Wayan RAI S インドネシア舞踊団  
田村 史子 インドネシア音楽研究家  
(関連分野)

吉田 禎吾 東京大学  
吉本 忍 国立民族学博物館

##### ◎討論参加者

###### (音楽)

粟倉 宏子 中京大学  
 井野辺 潔 大阪音楽大学  
 岡本奈智子 京都教育大学  
 小野 功竜 相愛大学  
 小島 美子 東京芸術大学  
 SAPTANO 東京芸術大学  
 高橋 昭弘 中京女子大学  
 滝沢 達子 愛知教育大学  
 谷村 晃 大阪大学  
 谷本 一之 北海道教育大学  
 拓植 元一 国立音楽大学  
 中川 真 大阪大学  
 西岡 信雄 大阪音楽大学  
 畑 道也 関西学院大学  
 樋口 昭 埼玉大学  
 馬淵卯三郎 大阪教育大学  
 森田 稔 宮城教育大学  
 梁島 章子 京都教育大学

(芸能・舞踊)

薄井 憲二 舞踊研究家  
 神沢 和夫 帝塚山短期大学  
 鈴木 正崇 東京工業大学  
 中村 保雄 京都国立博物館  
 増田 明 インドネシア芸能研究家  
 森永 道夫 帝塚山大学  
 山路 興造 芸能研究家  
 吉川 周平 鹿児島女子大学  
 渡辺 武雄 演出家

(関連分野)

青木 保 大阪大学  
 有山 正孝 電気通信大学  
 石黒 淳 名古屋大学  
 石田 正 大阪大学  
 石森 秀三 国立民族学博物館  
 岩田 慶治 国立民族学博物館  
 大森 康宏 国立民族学博物館  
 加藤 九祚 国立民族学博物館  
 川野 洋 東京都立工科短期大学  
 木村 重信 大阪大学  
 金 両基 カリフォルニア・インター  
 ナショナル・ユニバーシティ

熊倉 功夫 筑波大学  
 倉沢 愛子 摂南大学  
 杉田 繁治 国立民族学博物館  
 杉村 棟 国立民族学博物館  
 鈴木 道子 聖徳学園岐阜教育大学  
 大丸 弘 国立民族学博物館  
 垂水 稔 国立民族学博物館  
 中牧 弘允 国立民族学博物館  
 八村廣三郎 国立民族学博物館  
 福本 繁樹 染色家  
 藤井 龍彦 国立民族学博物館  
 細井 雄介 聖心女子大学  
 堀内 勝 東海大学  
 元井 能 京都市立芸術大学  
 森 淳 大阪芸術大学  
 森田 恒之 国立民族学博物館  
 山本 順人 筑波大学

◎記録計測参加者

板垣 圭子 大阪音楽大学  
 植田 公造 大阪音楽大学  
 大橋 哲郎 大阪大学  
 小川 勝 大阪大学  
 勝 美穂子 大阪音楽大学  
 川口 明子 大阪大学  
 塩見 逸子 インドネシア舞踊研究家  
 卜田 隆嗣 大阪大学  
 住谷 秀夫 大阪音楽大学  
 高橋 準二 大阪音楽大学  
 直原 和子 大阪音楽大学  
 橋本 以裕 大阪音楽大学  
 広井 栄子 大阪音楽大学  
 前田 昌宏 大阪音楽大学  
 山田 陽一 大阪大学

日程

10月18日 (月)

10:00 開会挨拶  
 10:20 デモンストレーション：ガンブ  
 ダルマ＝サンティ舞踊団  
 11:00 パネルディスカッション  
 12:30 休憩  
 14:00 パネルディスカッション



彙 報

16:00 休憩  
 16:20 デモンストレーション：ガンブ(テ  
 バック＝ジャラン物語)  
 ダルマ＝サンティ舞踊団

17:20 閉会挨拶  
 (以後 VTR など測定・記録)  
 10月19日(火)  
 VTR など測定・記録

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
杉田 繁治	助教授(第5研究部)	57.10.6	57.10.17	フランス
和田 正平	助教授(第3研究部)	57.10.6	58.2.27	フランス, マリ, ニジェール, オートヴォルタ, トーゴ
江口 一久	助教授(第3研究部)	57.10.6	58.3.20	フランス, トーゴ, マリ, ガ ボン, ニジェール, オートヴ ォルタ, カメルーン
杉本 尚次	教授(第4研究部)	57.10.7	57.10.13	大韓民国
栗田 靖之	助教授(第2研究部)	57.10.10	57.11.19	インド, ホンコン, バングラ ディシュ, ブータン
加藤 九祚	教授(第4研究部)	57.10.24	57.11.19	ソヴィエト連邦
吉本 忍	助手(第2研究部)	57.10.27	59.3.31	マレーシア, インドネシア, フィリピン, シンガポール, オーストラリア, タイ
小谷 凱宣	助教授(第1研究部)	57.10.29	57.11.9	アメリカ合衆国
周 達生	外国人 研究員(第1研究部)	57.10.29	57.12.13	中華人民共和国
佐々木高明	教授(第2研究部)	57.10.29	57.12.13	中華人民共和国
田辺 繁治	助教授(第2研究部)	57.10.29	57.12.13	中華人民共和国
石毛 直道	助教授(第4研究部)	57.10.30	57.12.25	タイ, ビルマ, マレーシア, シンガポール, フィリピン
ラドル・ ケネス	外国人 研究員(第5研究部)	57.10.30	57.12.25	タイ, ビルマ, マレーシア, シンガポール, フィリピン
大塚 和義	助教授(第1研究部)	57.10.31	57.11.9	中華人民共和国
藤井 知昭	教授(第2研究部)	57.11.1	57.12.15	中華人民共和国
和田 祐一	教授(第3研究部)	57.11.10	57.12.21	フィジー, ソロモン諸島
杉田 繁治	助教授(第5研究部)	57.11.10	57.12.21	フィジー, ソロモン諸島
松澤 員子	助教授(第2研究部)	57.11.19	58.1.18	台湾
竹村 卓二	教授(第1研究部)	57.11.28	58.1.7	中華人民共和国, 香港
秋道 智彌	助手(第2研究部)	57.12.3	57.12.14	イタリア, ギリシア
松原 正毅	助教授(第2研究部)	57.12.5	57.12.30	中華人民共和国

来館者抄

10月1日 Ioan LEWIS (連合王国, ロンド  
ン大学教授)  
 5日 大貫恵美子(米国, ウィスコン  
シン大学)

12日 Nongyao CHAISERI (タイ王国,  
タマサート大学長)  
 Petcheree SUMITRA (タイ王国,  
タマサート大学講師)  
 15日 Fidaullah SEHRAI (パキスタン,

- Director Peshawar Museum)
- 10月18日 中国国家図書館訪日団  
 李家栄 (団長)  
 朱南 (副団長)  
 田大畏  
 曾季光  
 周蓮
- 12月21日 アルフレッド・ピニエイロ・ロペス (メキシコ合衆国, ヌエボ・レオン自治大学長)  
 ホルヘ・エンリケ・サンブラノ・ビージャ (メキシコ合衆国, クェダラハラ自治大学長)  
 ルベン・カストロ・ポホルケス (メキシコ合衆国, バーハ・カリフォルニア・ノルテ自治大学長)
- 22日 中国社会科学院哲学研究所訪日団  
 辛冠潔  
 衷爾鉅  
 馬振鐸  
 滕穎
- 23日 楠川 絢一 (東京都立大学総長)  
 湯川 泰秀 (大阪女子大学長)  
 木村 英一 (大阪市立大学長)
- 28日 Nugroho NOTOSUSANTO (インドネシア共和国, インドネシア大学長)
- 11月18日 Pieter Van EMPLEEN (オランダ王国, 海事博物館長)
- 22日 中国社会科学院青少年研究所  
 張黎群 (団長)  
 謝昌遠  
 唐若昕  
 王家柏
- 12月10日 B. E. KIPKORIR (ケニア共和国, ナイロビ大学アフリカ研究所長)
- 11日 Adib LAJMI (シリア, 文化省事務次官)  
 Nabila RAZZAZ (シリア, 教育省初等教育局長ユネスコ委員)
- 13日 田中 正武 (京都大学教授)  
 阪本 寧男 (京都大学助教授)
- 14日 Nibondh SASIDHORN (タイ王国, シーナカリンウィロート大学長)
- 17日 中国科学技術大学訪日代表団  
 馬西林 (団長)  
 任知恕 (副団長)  
 鄭文秀  
 楊衍明  
 葛新石  
 尹方  
 方容川
- 22日 高木 俊宜 (京都大学教授)
- 27日 大野 豊 (京都大学教授)

## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のすみ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1  
国立民族学博物館内  
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。  
[柳田 1942: 67-69]  
[Leach 1961: 123]  
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]  
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。  
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
  - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
  - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.  
In Eric H. Lenneberg (ed.), New Directions in the Study of Language,  
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 8卷1号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

伊 藤 幹 治

〔編集委員〕

石 森 秀 三

煎 本 孝

大 森 康 宏

小 川 了

長 野 泰 彦

松 原 正 毅

守 屋 毅

山 本 紀 夫

---

昭和58年3月31日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 8卷1号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園10-1  
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL 075 (441) 3155 (代表)

---

